

混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

ほとけの混和会だより

平成三十年一月

東光院

仏の混和会

第131号



謹んで新春のお慶びを申し上げます

年頭に際しまして、
檀信徒、皆様の健康と
ご多幸と心より
お祈り申し上げます。
本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます。

平成三十年 元旦

檀信徒の皆様、新年に於かれましては、健やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。又東光院の様々な諸行事にご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。昨年「人は何の為に生きるのか」というテーマを、かかげて歩んで参りました。そこで「結論は「私達は（ブツダ）に成る為に生きて居る。その仏に成る為に菩薩として、その仏に成る為に大それた結論に至ったわけ

であります。しかし、これは教科書に記された優等生の回答であって、私達は、仏の境地を求め己を厳しく追いつめて生きるのでは無く、ゆったりと、一言で「共に幸せに成る為に生きる」と思っております。そこで平成三十年度は「共に幸せに成る為に生きる」と言う事をテーマとし、そして課題として「歩んで参りたい」と存じます。 合掌

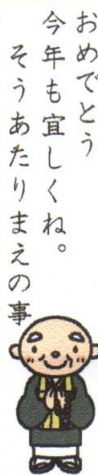
共に幸せに成る為に生きるに

NO.1



ねーねーお坊さん、あけましておめでとうございませう。

今年も宜しくおねがいします。本年度のテーマは「幸せに成る為に生きる」ですか、なんか改めて言う言葉では有りませんよね、当たり前の事ですよ。



おめでとう。今年も宜しくね。そうあたりまえの事なんじゃが、現在はそのあたりまえの事が見えなく成って苦しみもがいて居るのが現実かと思うのじゃよ。何が幸せなのか、何を幸せとするのか、この幸せの受け止め方が、大きな課題では無かるうかと思つたのじゃよ。

正月には、「今年こそ幸せになれますように」とか「何時までも健康で長生き出来ますように」などと幸せを願う神社仏閣に参りするけど、漠然と幸せを願って歩む方向性が定まらなければ、迷走の人生と成ってしまうよ。更に永遠の健康を願っても神様も仏様も叶えてはくれない。何時かは病に伏して死を迎えなければ成らない、みんな解って居るけど受け止めたくは無い、出来るものならばさけて通りたい、かと思つたのじゃよ。

そこで本年度は、生も老も病も死も、みんな幸せと受け止められるように、そして今が、幸せと受け止められるように、一歩ずつ歩んでみようと思つているのじゃよ。実はね平成十八年に建立された東光院境内の観音堂はね、昔の農家の家を摸して造つたのじゃよ。当時の農家の生活は大変厳しいものが有つたろうけど、家族に抱かれる安心とか、家族の為に、と言う生き方から生きる指針も喜びも抱け、ほのぼのとした幸せに包まれていたように思えるのじゃよ。

更に己の命を受け継ぐ家族があつたから、命を伝える喜びも、受け継ぐ責任も見いだす事が出来たように思えたのじゃよ。昔の農家は大家族で、祖父母に両親、そして数人の子供が居て、土間で土足のままくつろぎ、その隣には、かまどが有つてお母さんが炊事にいそしみ、おじいさん、おばあさんは奥座敷で何時も家族を見守っている。

そのような、ほのぼのとした幸せが得られるようにと願いを込めて土間の有る観音堂を建立したのじゃよ。

そこで今回のテーマが無にならないうちに「ほとけの家族」と称する、よりどころを築き、楽しみの共有、そして幸せの共有に努めて行こうと思つているのじゃよ。

先ずは比叡山参拝とか、日帰りの山歩きなど、身近なところから始めて行こうと思つているのじゃよ、一緒に幸せに成ろうね。

大愚亮 観拝

日本の仏様

新年号



今回は新年特別号と題し、今年の干支である『いぬ』に纏わる話を紹介します。
真言宗の開祖空海様と『いぬ』とのお話です。

●空海を導いた『いぬ』



まだ空海が学生であった時、最澄らと共に、仏教を学ぶため、中国へ渡られました。中国へ着いた空海は、今まで日本には無かった、真言密教という教えに出会い、日本へ持ち帰るため密教を学びました。

やがて空海が中国から日本へ帰国する際、空海は日本へ向かって「密教を広めるのに相応しい場所に落ちよ」と唱えると三鈷杵という密教道具を海に向かって投げられました。帰国後、投げた三鈷杵を探していた空海は高野山の山中にて、白と黒の二匹の犬を連れられた獵師と出くわしました。空海は事の経緯を説明すると、二匹の犬は空海を三鈷杵の引っかかり松の木まで案内したので、そのため高野山という地に真言密教の本山が開かれました。



この二頭の犬を連れられた獵師、実は高野山の地を護る神様であり、二頭の犬はその神様の使いでした。

●現代に現れた案内犬



和歌山県北部に、高野山へと続く玄関口であり、空海の母親が暮らした「慈尊院」というお寺があり、そこにゴンと言う名の犬が居りました。もともと野良犬でしたが、いつからか、最寄り駅に降り立った参拝客をお寺まで道案内を繰り返していた事からお寺に住み着きました。

ある日参拝者から「高野山までゴンに案内してもらった。」と連絡が来るように。お寺から高野山へは約20キロ以上。人の足で7、8時間かかる道のりを誰に教わるわけでも無く、ゴンは毎日道案内をしていたのです。そのため、「弘法大師の案内犬の再来・生まれ変わり」と親しまれていました。

そんなゴンは02年6月5日に息を引き取りましたが、この日は空海の母親の命日でもあったそうです。現在はゴンを惜しんで「高野山の案内犬ゴン」の石像が慈尊院の空海像の隣に立てられているそうです。もしかした本当に三匹目の神様の使いの犬だったかも知れませんね。
亮澄拝

新年を迎え...



一年とは過ぎてしまえば実に早いもので、気づけばあつという間に平成も三十年になってしまいました。

以前は新年を迎えることにごか特別な思いを抱いてドキドキしていたものですが、昨今は日々の延長線として、昔ほど年の区切りというものを意識しなくなってきたことに寂しさを感じる次第でございます。しかし、規律ある生活の上でけじめをつける意味でも、やはり区切りをつけて一度気持ちをリセットする機会を持つことは大切なことだと、洗心革面の思いで新年を迎えたいと思います。

大豆の脱穀を行いました



去る十二月六日、境内において味噌の仕込みに用いる大豆の脱穀作業を行いました。虫害や天候等の要因から莢(さや)の乾燥が進まなかったこともあり、思うように



実を取り出せず、収量は少なくなりましたが、お手伝いいただいた皆様とともに貴重な収穫を喜びました。



暮れの大掃除を行いました

十二月二十三日、境内の大掃除を行いました。当日は天候に恵まれ絶好の掃除日よりとなり、大勢の方のご協力の元、各々境内整備や堂内清掃等に励み、普段は手の届かない部分の汚れもきれいにさせていただきました。最後には今年の新そばを一同堪能し解散となりましたが、皆様のおかげで心身ともに清らかな状態で新年を迎えられますこと、改めて御礼申しあげます。
亮敬拝